

〇〇

NPO法人 がん患者支援ネットワークひろしま

〇〇〇

桜の花の季節もあっという間に終わり、新緑が日々濃く眩しく輝きはじめ、比較的晴天の日が続き、夏のように暑くなって参りましたが、会員の皆様は、いかがお過ごしでしょうか？

ニュースレター第4号をお送りします。

5月28日（土）午後5時30分から、当会の16年度事業報告と収支決算を審議していただく通常総会を開催する予定です。理事を含め会員の皆様にとって初めての決算総会となりますので、会員の皆様にぜひご参加いただき、審議していただきたいと思ひます。詳細については事務局からの開催招集通知をご覧ください。

当会の第2年度目が始まりました。

理事を中心に、今年度新たに取組む事業の打合せが始まっております。会員の皆様が運営する側として、どんどん取組んでいただけるような仕組みを考えて参りたいと思ひます。

会員の皆様の積極的なご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

●Dr. 津谷の「がん患者の在宅療養は任せんさい」

患者と医者の関係とは？

2月27日、がん患者支援ネットワークひろしまの設立記念シンポジウムが開催され、無事終了しました。大変有意義なシンポジウムで、参加された患者さんや家族の方も満足して帰られたことと思ひます。また本会の活動に対し、いろいろなご意見や励ましのお言葉をいただき、大変感謝しております。

その中の一つに、“医者と良好な関係ができてゐるが、医者と患者は同じ土俵にいないと感じてゐる。”との意見がありました。

最近の医療現場において、マニュアルを読むが如くがん告知をし、患者さんに治療の選択を迫り、予後観測をする医師の姿を多く見受けます。

患者さんは、がん情報を収集し、セカンドオピニオンを探し、最後は“お任せします”となるのではないのでしょうか。

確かに医師との関係が良い場合でも、同じ土俵にいないと感じている方が多いでしょう。インフォームドコンセントが先行し、患者と医師が割り切った契約関係だけというのでは、日本の現状にはなじまないでしょう。

ここで最近、私が感動した詩を紹介しましょう。

今年の2月、皇太子殿下がお誕生日に紹介された、古き良き時代のアメリカの教育家ドロシー・ロー・ノルトが書いた、“子ども”という詩です。

**批判ばかりされた 子どもは 非難することを おぼえる
殴られて大きくなった 子どもは 力にたよることを おぼえる
笑いものにされた 子どもは ものを言わずにいることを おぼえる
皮肉にさらされた 子どもは 鈍い良心の もちぬしとなる
しかし、激励をうけた 子どもは 自信を おぼえる
寛容にであった 子どもは 忍耐を おぼえる
賞賛をうけた 子どもは 評価することを おぼえる
フェアプレーを経験した 子どもは 公正を おぼえる
友情を知る 子どもは 親切を おぼえる
安心を経験した 子どもは 信頼を おぼえる
可愛がられ 抱きしめられた 子どもは 世界中の愛情を 感じとる
ことをおぼえる**

この詩で重要なことは、親と子供の愛です。

ちょうどこの関係は患者さんと医師の間にも当てはまります。患者さんは子供であり、あるときは親の立場なのです。医師も同様です。

この詩の子どもを“患者”や“医師”に置き換えて読んでみてください。本当の意味での患者と医師の対等な関係が確立し、がん医療もきっと明るいものになるでしょう。

副理事長 津谷隆史

●シリーズがん療養生活の基礎知識A to Z

在宅医のつぶやき④

「わしは家に帰りたいんじゃ」

芳雄さんは病室で何度も叫んでいました。芳雄さんはやり残したことがあってどうしても家に帰りたいかったのです。

家に帰るとすれば奥さんの協力が必要でしたが、奥さんは芳雄さんが家で療養することには反対でした。「私は体が弱いし家では介護する者が私一人じゃけえようみません」とおっしゃるのです。

奥さんからの依頼で初めて芳雄さんのお宅にお伺いしたのは初秋のある日の午後でした。

芳雄さんは肺がんで両方の胸に胸水がたまっており肋骨や脊椎に転移がありました。芳雄さんは自分の病状やこれまでの経過を丁寧に話して下さり「今のつらい症状を何とかして欲しい」と希望されました。

芳雄さんは「自分史」を書いておられ、その完結を自分の人生の集大成と考えていたのです。酸素吸入や痛み止めを使って症状は随分楽になりましたが体が不自由なのでどうしても奥さんに頼ってしまいます。奥さんも最初は一生懸命介護しておられましたが、だんだんご自分の調子が悪くなりとうとうギブアップしてしまいました。

末期がんの患者さんが在宅で療養される場合には、ご家族の協力が必要と考えています。在宅療養を担当するスタッフは24時間体制でお世話をさせていただいていますが、病院やホスピスのように、いつも医療や介護のスタッフがそばにいてくれる訳ではないので、どうしてもご家族に負担がかかってしまいます。

しかし在宅の良さは、療養の場が「住み慣れた自分の家」という点に尽きます。大切な家族や親しい人たちに囲まれて残された時間を過ごすことはとても重要なことです。ご家族の方も「限られた時間を大切な方と住み慣れた自分の家で過ごすことができる」というお気持ちで介護していただくと良

い結果になると考えています。

芳雄さんは「家に帰りたい」と訴えることも次第になくなり、晩秋のある日ご家族に看取られて病院でお亡くなりになりました。

理事 田村裕幸

●「がん患者さんのためのQ&A」

がん療養生活の中で、さまざまな疑問や不安を感じます。

私たちは、がん患者さんやご家族のこのような疑問や不安の一つひとつ答えていき、安心して療養生活をしていただきたいと思います。

疑問や不安について会員の皆様からのご質問をお待ちしております。

第4回目は、「**モルヒネの使用と副作用**」についての質問です。

問) 担当医からモルヒネを勧められています、副作用が恐ろしいので、使用を躊躇しています。

答) もちろんモルヒネも薬ですから、当然副作用があります。

副作用の主なものは便秘と食欲低下と眠気です。特に便秘はモルヒネを飲むとよく見られる副作用であり、コントロールにとっても苦勞することがあります。

また、そのほかにも、汗がよく出る、かゆみができる、体がびくつとなるなど、いろいろな副作用が出る可能性があります。

皆さんがよく心配される『気が変になる』というのは全くありませんが、高齢の方では、まれに、いわゆる譫妄(せんもう)といわれる症状が出る場合がありますが、頻度は1%以下です。

一般的に薬には副作用がつきものですが、消炎鎮痛剤の副作用(胃潰瘍、腎障害、肝障害など、症状が出現したら薬の使用を中止)などに比べると、モルヒネは、はるかに安全であり「薬を中止するような副作用」はありません。

モルヒネを飲むべき痛みには、おそれずに使ってください。

理事 藤本真弓

●「訪問看護をご存知ですか？」

訪問看護は、主治医とチームを組み、夜宅療養の患者さんのご自宅に訪問看護師が訪問し、24時間連絡体制で在宅療養を支援します。

患者さんやご家族の意思を尊重しつつ、「いのち」をまっとうしていただくため、患者さんやご家族の一人ひとりが抱えている身体的、精神的、社会的、実存的な痛みや悩みが軽減できるよう、専門教育を受けた経験豊かな看護師がヘルパーやボランティアなどと協力して必要な支援をしています。

なお、訪問看護を利用するには、かかりつけ医の指示書が必要ですが、介護保険、医療保険が適用されます。

広島県訪問看護ステーション協議会（会長 山口昇 公立みつぎ総合病院事業管理者）に所属する訪問看護ステーションは、県内に162か所あり、この内24時間連絡体制で緩和ケアを提供できる訪問看護ステーションは84か所あります。

お近くの訪問看護ステーションや必要な費用などご利用の詳細は次のところにお気軽にご相談ください。

広島県看護協会訪問看護事業局

TEL 082-527-0587

FAX 082-527-0588

担当：名越

理事 名越静香

●広島県内のがん関係イベント情報

○緩和ケアを考える会・ひろしま第36回定例研究会

2005年5月21日（土） 14時～16時30分 広島国際会議場/ダリア

講師：上尾甞生病院 磯崎千枝子

事務局（電話082-545-3140 term@hiroshima-cdas.or.jp）

参加費：会員/学生 1,000円 一般 1,500円

○市民のためのがん講座(平成17年度6回シリーズのスタート)

2005年5月28日(土) 15時～17時 広島市中区地域福祉センター

テーマ:①がん細胞の不思議(広島大学医学部 安井弥先生)

②子宮ガンの基礎知識(順天堂大学医学部 広川裕先生)

事務局(Tel/Fax 082-289-0610 info@gan110.rgn.jp)

参加費:(通年) 会員 4,500円 協力団体会員 6,000円 一般7,500円

(1回) 会員 800円 協力団体会員 1,300円 一般1,300円

○第13回日本ホスピス・在宅ケア研究会 in広島

2005年6月18日(土)～19日(日) 広島国際会議場

「寄り添う心わかちあう心～私はあなたを一人にしない～」

事務局(電話082-222-1555 hiroshima2005@chive.ocn.ne.jp)

参加費:事前登録 5,000円 当日 6,000円(1日のみ 4,000円)

学生2,000円

●編集後記

第4回ニュースレターをゴールデンウィークの真っ只中にお届けできました。

毎回毎回、お届けが遅くなる言い訳をしており申し訳ありません。次回こそもう少し早くお届けしたいのですが、どうなりますことやら。

引き続き、会員の皆様からのご意見、ご要望、ご質問を募集しております。是非、担当者へお寄せください。ご紹介させていただきます。

(浩)

■発行: NPO法人がん患者支援ネットワークひろしま事務局

<http://www.gan110.rgn.jp>

■お問い合わせ: info@gan110.rgn.jp

■Copyright: NPO法人がん患者支援ネットワークひろしま
